

別紙

静岡県社会福祉協議会ふれあい基金
ボランティア活動等活動推進助成事業申込書

申込助成種類		①活動推進助成 ②先駆的(モデル的)活動助成 (〇をつけてください。)			
① グループ・団体名		静岡福祉文化を考える会			印
② 代表者役職・氏名		(役職) 代表 平田 厚			
③ 所在地		(〒424-0840) 静岡市清水区追分3丁目 5-17 NPO法人 泉の会内 TEL 054(367) 2878 FAX 054(367) 2884			
④ 連絡先	担当者氏名	古屋貴彦			
	郵送先住所	〒420-0886 静岡市葵区大岩 2丁目41-4			
	TEL	090-3364-7493	FAX		
	Mail				
グループ・団体の概要	⑤ 結成(設立)	平成8年9月1日	⑥ 会員数	20人	男性 14人 女性 6人
	⑦ 主な活動内容	(簡潔に記入してください) 世代や領域を超え、福祉やボランティア活動に関わる会員が、地域が抱えている地域全般のさまざまな課題解決・改善に市民の視点で23年間取り組んでいる。 活動基調は、「専門性と市民性を融合」「地域総合型・公開型実践活動の取り組み」「市民主体で新たな地域課題解決の取り組み」の3つを掲げている。 年3回の公開型研修会・福祉文化研究セミナー等の開催、関係団体等と協働による実践活動の取り組み、地域の福祉課題をテーマにした調査研究活動、啓発活動等に取り組んでいる。 これまで4年間は、「ご近所福祉」[地域ぐるみの居場所]を課題に、若者の存在と地域参加のきっかけづくりの働きかけに努め、そこから浮き彫りになった課題として、ここ2年間は「子どもを取り巻く地域環境を探る」活動をテーマに、ワークショップ等で市民と共に課題解決に取り組んでいる。			
	⑧ 予算状況	収入総額	136千円	支出総額	136千円
⑨ これまでに受けた助成	助成団体名	助成年度	助成金額	助成内容	
	みずほ教育福祉財団	H20	150千円	ワイヤレスアンプ機材購入	
	中日ボランティア賞 奨励金	H20	150千円	協働による地域実践活動	
	赤い羽根共同募金「安心安全な街づくり支援事業」	H20	200千円	「長寿者の生きがいとその意識と実態調査事業」	

	赤い羽根共同募金	H27	445千円	「若者発 ご近所福祉かるた」の作成と地域学習における活用
	静岡市V連団体協議会	H28	30千円	ご近所福祉その意識と実態調査活動支援
	明日の日本を創る協会	H28	30千円	ご近所福祉その意識と実態調査活動支援他活動費
	鈴与マッチングギフト	H28	97千円	「若者発 ご近所福祉かるた(拡大版)」の作成と地域学習における活用
	静岡県社会福祉協議会 ふれあい基金	H29	13,0千円	[地域ぐるみの居場所その意識と実態調査報告書]作成
	ふじのくに未来財団	H29	370千円	
	⑩現在申し込んでいる助成		千円	
			千円	
⑪申込事業名称	「子どもを育む地域づくり意識と実態」を検証。			
⑫事業の目的及び効果	<p>(具体的かつ簡潔に記入してください。)</p> <p><目的>本会は、平成30年度末に、手づくりで、県民と共に「子どもを育む地域づくりその意識と実態調査」を1,000名を対象に実施した。その結果、回収率80.1%とこの23年間の調査活動では、非常に高い関心が寄せられた。回答に協力された県民や関係機関団体から、「報告書」の提供と共に、結果を広く県民に課題提起する要望がここにきて多くあり、令和元年度も引き続き「子どもを地域で育む仕組み」をもとに継続した活動事業として取り組むことにし、「調査結果」を「報告書」としてしっかりと分析考察をし、広く県民に調査結果から浮き彫りとなった課題を基に、「共助」を中心に、新たな福祉コミュニティづくりの再構築を生み出す呼び掛けをするとともに、県民及び子どもに関わる関係団体等との連携をもとに、「共創実現研究会」を設置し調査結果をさらに「地域づくり」に活かすことを目的に取り組む。</p> <p>本来ならば、大人社会が安心して安全で、豊かに暮らし合う地域社会を築き、子どもたちが健やかに成長する暮らしを保障すべき私たちの地域社会が、大人社会の意識の個人志向化、希薄化により、地域環境全体の弱体化をもたらし、子どもを取り巻く社会環境は、ここにきて「制度」や「公助」で賄うシステム化を中心とした社会環境に流れているように感じられる。</p> <p>高齢者等を取り巻く地域社会も、出発点は、家庭・家族の絆をもとに、「ご近所福祉」の支えあいにより、問題解決・改善につなげる道程があった。しかし、今では、「制度」や「公助」を良しとして、私たちの意識を大きく変えようとしていることに気づく。改めて、私たちを取り巻く地域社会は、生活圏域の様々な福祉課題を、地域の持つ「福祉力」で支え合いの仕組みを構築していくことが問われている。</p>			

「地域の子どもを地域で育む」ことが出来る地域環境はいかにあるべきか、子どもを育むその原点である「家庭・家族機能のあり方」を問いつつ、子どもたちを取り巻く身近な生活圏域の地域環境について、いかにして、コミュニティ組織の中で、大人社会は子どもたちと向き合い、地域ぐるみで子どもたちを育む地域づくりに取り組むか、「協働」をもとに身近な生活圏域の地域問題として取り組む。

本会の活動基調である「専門性と市民性を融合した活動」「広く地域課題を共有した地域総合型活動」「新たな地域課題解決に向けた活動」をもとに、情報の共有、広報啓発、人的交流、プロセスを重視し、人々が支え合って暮らし合う生活圏域における「地域課題」を掘り起こし、課題提起をする取り組みを、「生活会議」と置き換え、「福祉文化実践活動」を通じて地域社会に提言をする。

<効果>本事業の活動テーマを「子どもたちを地域ぐるみで育む福祉コミュニティの再構築に向けて」と置き換えて、活動からの効果をあげると、

- (1) 子どもから自立した若者へと成長していく過程における社会的環境をいかに整えていくかを「一地域ぐるみで子どもたちを育む環境づくりへの提言―」を「意識と実態調査」をまとめ課題提言することができる。
- (2) これまでの23年間の福祉文化実践活動のプロセスから、福祉コミュニティの再構築をキーワードに「子どもを育む地域づくり」とし「家庭・家族機能の再生」を認識し、「真の子どもの居場所」を問い、検証するため、「子どもを育む地域づくり その意識と実態調査」をさらに「報告書」にまとめ、地域社会に課題提起をすることができる。
- (3) 市民主体の福祉コミュニティの再構築について、県民と共に「ワークショップ方式」で広く「公開型研修会」の機会を確保し、「地域総合型学習」の取り組みを深め、地域性を鑑みながら、住民一人ひとりが担い手としての意識改革の機会を持つことを働きかけることができる。
- (4) 「子ども食堂」や「子どもの居場所」「学習支援」等県内の子ども支援に取り組む県内実践活動者を中心に「共創社会研究会」を設置し、実践活動から見た子どもの取り巻く環境について広く意見を求め、これからの地域づくりへの提言をまとめることができる。
- (5) 「調査報告書」をもとに、23年間の「静岡発 福祉文化の創造」の実践活動のプロセスを通じて、地域性を踏まえた「子どもの健やかな環境づくり」について実践事例を検証し、これからの福祉コミュニティの構築について課題提起をする。
- (6) 広く、県民に「子どもをいかに地域で育むことができるか」を本会機関誌「OUR LIFE」（結成以来、通算124号発行、毎回200部）を通じて啓発する。

<p>⑬ 事業内容及び計画</p>	<p>(時期、場所、参加者、実施内容等を具体的に記入してください。)</p> <p>①調査報告書の作成(200部作成し、地域総合型学習に活用)</p> <p>A 仕様 A4版 約100P仕立て 200部作成</p> <p>B 実施時期</p> <p>3月 回収個票の取りまとめ(平成30年度事業として整理)</p> <p>5月～7月 単純集計作業からクロス集計作業(分析・考察)</p> <p>8月 報告書仕上げ</p> <p>9月以降 A 調査協力団体・実践者に報告書仕上げの報告</p> <p>B 「共創社会実現研究会」設置と活用</p> <p>C 関連団体等との意見交換に活用</p> <p>D 公開型研修会に活用</p> <p>E 意見集約と報告</p> <p>②地域学習会及び公開型研修会の開催</p> <p>*期間中、調査結果考察をもとに「ワークショップ」3回開催するとともに小地域における学習会にて議論居場所開拓に関して、地区に入り、住民</p> <p>*具体的な開催内容</p> <p>○8月 3日(土) 13:30 静岡市清水区追分「寄ってっ亭」</p> <p>研修テーマ: ささえあう地域ぐるみの“子どもの居場所”を考える</p> <p>○11月16日(土) 13:30～16:30 静岡市葵区 総合社会福祉会館</p> <p>研修テーマ: 『静岡発 福祉文化の創造と子ども支援を考える』</p> <p>○3月14日(土) 13:30 静岡市清水区追分「寄ってっ亭」</p> <p>研修テーマ: 子どもたちが安心して暮らせる地域づくりとは</p> <p>③「共創社会実現研究会」の設置と運営</p> <p>A 開催日時 第1回 9月 静岡市葵区 総合社会福祉会館</p> <p>第2回 11月 静岡市葵区 総合社会福祉会館</p> <p>第3回 3月 静岡市清水区追分「寄ってっ亭」</p> <p>B 構成 世代・領域を超えた構成で、市民主体の議論</p> <p>本会会員5名、県内実践者5名 10名程度</p> <p>C 協議内容 *研究会の位置づけと方向性、地域の現状、</p> <p>*調査結果からの課題討議</p> <p>*実践地区検証、公開型研修会結果考察</p> <p>*事業全般考察(提言)</p> <p>④23年間の「静岡発 福祉文化の創造」の実践活動のプロセスを通じて、地域性を踏まえた「子どもの健やかな環境づくり」について県内子ども支援の現場を検証し、これからの福祉コミュニティの構築について課題提起</p> <p>A 県内2地域の現場を検証 B 意識と実態を考察</p>
-----------------------	--

	⑤「機関紙発行計画」に基づき『OUR LIFE』の発行 ①年4回 A4版 4ページ構成 上質紙印刷 200部発行 ②各号共通記事：「コラム」「事務局日誌拝見」「編集後記」 ・『調査考察』『子どもを地域で育む実践活動』『子どもの居場所議論を深める』 『23年の道程 f 櫛文化と子どもたちを総括』		
⑭ 事業費の内訳	項 目	内訳(積算根拠)	金 額
	謝 金	協力費 5,000×3回×5名	75,000円
	旅費交通費	地域との連絡調整旅費 2,000×10回	20,000円
	通信運搬費	事前連絡通信費 82×30 事後連絡費 82×30 報告書送付 82×50	9,020円
	消耗品費	パソコンインク代 10,000 上質紙 5,000 発送用封筒 3,000 ラベルシール等 2,000	20,000円
	印刷製本費	報告書 500×200部 (115,000円) リソ印刷 5×2000 フィルムマスター代 50×10	125,500円
	賃借料	会場費 4,500×3回	13,500円
	会議費	居場所学習会等 3回	3,000円
	備品費		
	保険料		
		合 計	266,020円
		助成申込額合計 (千円未満切捨て)	260,000円